

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十一年四月度 入選句（投稿総数千八百七十八句・一般投句数千三句）

特選 選者 長野 美代子

この坂を登れば故郷落椿 大垣市 岡田 あや子

この句は山里の方だと思ふ。春夏秋冬美しい景色を見せてくれる山里。住むとなれば又べつである。学校へ行くのも帰るのも此の坂を毎日一歩一歩あるくのである。年を経て思へば懐かしくもあり切なくもなる。通いなれたこの坂を登れば我が故郷。径には椿の三つ四つ落ちてゐる静かな景である。心に沁みる秀句です。

涅槃西風仁王まばたきこらえけり 大垣市 安田 むっこ

涅槃会の前後に吹く風のこと。俗に浄土からの迎えの風ともいはれる。仁王様もまたたきをこらえてる。なんとも微笑ましい俳句だと思います。心やさしい佳句です。

受験生鉛筆にぎる白い指 本巢市 小泉 裕子

人生始めて受験をする緊張した少女の姿が浮んで来ます。握りしめた鉛筆に心をたくす白い指。いろいろの思いが交差する一時。秀句ですね。

### 秀逸

ガラス戸に火焰のやうな春夕焼	大垣市	高津 喜久子
咲いてすぐけられ踏まるる犬ふぐり	大垣市	富井 あや子
色褪せし雛百年の歩みかな	大垣市	松岡 みつ
伊吹嶺に拳をあげて卒業す	大垣市	村田 通夫
都合よきことだけ聞え四月馬鹿	大垣市	末守 節子
京の春八坂の車夫の英会話	不破郡垂井町	西田 厚堂
玻璃戸より射し込むあかり朧月	大垣市	久保田 悟義
鳥帰る帰れぬ鳥もいるのやら	大垣市	佐竹 余史美
苗札の季節はやくも入れかはり	大垣市	多賀 英華
追いかけて追いかけて野に遊ぶ	安八郡安八町	棚橋 良子

入選

ひとすじの紅受け入れる白椿  
 神奈川県大和市 岩田 爾瑠  
 亀鳴くや成せば成りたる一夜城  
 愛知県知立市 新美 欽哉  
 花筏棹に乱るる結びの地  
 愛知県稲沢市 後藤 幸子  
 ふねをこぐせなかにさくらゆらゆらと  
 愛知県名古屋市 沖 恵子  
 春障子さゞめく二人背を丸め  
 大垣市 吉川 和子  
 草田男や昭和もとほく忘れ霜  
 大垣市 平野 きぬよ  
 新社員ズボンの線の乱れなく  
 大垣市 松岡 みつ  
 初蝶や風の一瞬きらめけり  
 羽島郡笠松町 易田 喜芳子  
 集落の静けさ戻る落雲雀  
 大垣市 佐久間 敏雄  
 侘びヶ家に桃の花咲く小縁側  
 大垣市 中村 有紀

入選

少年の眼差し一途葱の花  
 大垣市 中山 あや子  
 桜道いつかあなたと歩きたい  
 大垣市 長瀬 友美  
 雛の間へよそゆきの顔する幼  
 大垣市 福田 みゑ  
 おだやかに日を散りばめる春の湖  
 大垣市 宮脇 和子  
 月朧うるむ城下は更けゆけり  
 大垣市 坪井 克枝  
 霾ぐもり彩色土器のひとかけら  
 大垣市 臼井 秀子  
 花曇り拭ふめがねの遠景色  
 大垣市 尾関 逸子  
 十指出ぬ制服着る子山笑ふ  
 大垣市 野村 多佳子  
 今いづこふらここ共にこぎし人  
 揖斐郡大野町 豊田 美見  
 大垣の天守吹き抜く花の風  
 愛知県稲沢市 後藤 興生

選者吟

残雪の山より淡き昼の月

美代子